

PFAS 最新情報

脱プラサークル

「食べもの通信6月号」に、PFAS最新情報が掲載されたので紹介したい。

「PFASの汚染は、基地周辺だけでなく、工場跡地や各種工場、産業廃棄物処理場など全国に広がり、地下水や河川、農地の汚染が次々と明らかになっている」として、水質の新基準の問題点や基準値を超えた地域の情報なども紹介している。

科学ジャーナリストの植田武智さんは、「緩すぎる日本の水質新基準50ナノグラム」について、新基準(2026年から測定と順守義務)の根拠は、アメリカの20年前の動物実験をもとにしたものであり、アメリカは、発がん性のデータをもとにこれ以下なら安全と言える量はないということで、2024年に採取基準はゼロが望ましいと決定した。(限界値の4ナノグラム)

日本は、一昔前の基準値がそのまま使われることになり、食品安全委員会の評価では、腎臓などの発がん性や子どもへの免疫毒性、出生時の体重減少など有害性について、関連は否定できないが基準値設定の情報が不十分として、却下されている。さまざまに毒性が本当にあった場合、この基準値では、有害影響が出てしまうと・・・と、植田さんは、危機感を持って訴えています。

また、PFASの汚染は、全国に広がっており、水源になる川なども規制をするべきであるが、法的拘束力のない要監視項目にとどめるとされたことも、大きな問題点だと書かれていた。

そして、ジャーナリストの幸田泉さんが、大阪のダイキン工業の工場周辺住民の血液検査の結果では、3割が危険ラインを超えていること、明石川の汚染についても、住民の血液検査では、半数がガイダンスを超えていたと報告している。

また、岡山の吉備中央町での水道水の汚染についても、町は、公費で検査を行ったが、その後は「何か症状があれば医療機関の受診をお勧めします」と他人事のような態度。何十人の子どもが大量のPFOAを摂取していることは重い事実だと、住民代表の声を紹介している。

2025年5月には、初めて東神戸病院でPFASの検査が行われている。その結果が公表されたら、報告したいと思う。

「PFAS」海外の基準値	
 アメリカ (今年4月決定に)	PFOS PFOA それぞれ 1Lあたり4ナノグラム
 ドイツ (2028年から)	PFOS PFOA などの合計が 1Lあたり20ナノグラム
 日本	(暫定目標値) PFOS PFOA の合計が 1Lあたり50ナノグラム